

第3号様式

令和6年度 京都府立大学地域貢献型特別研究（府大 ACTR）成果概要報告書

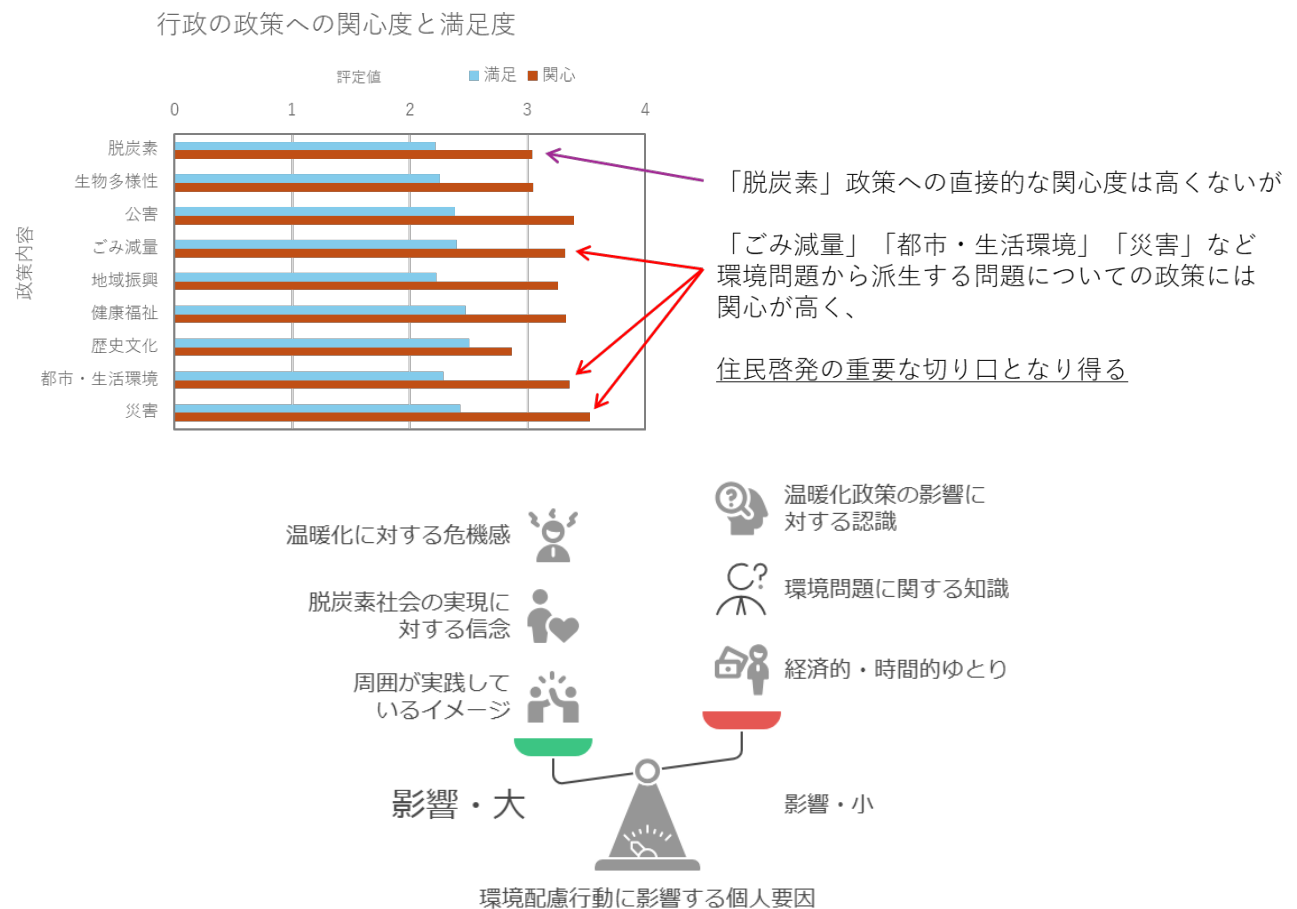
分類 番号	8	取組 名称	府下自治体の脱炭素化を加速するための調査研究 —宇治市、福知山市、久御山町を対象として—
研究代表者所属・職名：		公共政策学部・教授	氏名： 森下 正修
研究担当者：京都府立大学（森下正修、古田裕三、宮藤久士、山川肇、岩崎雅史、石田正浩、池田維、松原斎樹（敬称略）） 外部分担者・協力者（宇治市・安田氏、久御山町・福田氏、福知山市：足立氏、飯田氏ほか）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
京都府、宇治市、福知山市、久御山町、NPO 法人地球温暖化防止活動推進センター、㈱たんたんエナジーなど			
【研究活動の要約】			
脱炭素社会の実現に向け、府の地域住民や事業者の意識や行動、ニーズなどを多角的に調査・分析した。 ・地域住民については、3市町で脱炭素に関する意識や行動についてアンケート調査を実施した。事業者については、脱炭素経営の実態やニーズを調査し、具体的な課題や支援策のあり方を検討した。 ・WEB 検索のデータ分析から、脱炭素に関する言葉の使われ方や3市町の傾向の違いを明らかにした。 ・地域資源の活用として、福知山市の森林の二酸化炭素吸収能力とクレジット化の可能性を検討した。 ・中間支援組織の役割について検討し、京都府地球温暖化防止センターの活動事例を分析した。 ・カードゲームを用いたワークショップを開催し、参加者の体験を通じて、脱炭素に関する意識を高め、行動変容を促す試みを実施した。			
【研究活動の成果】			
本研究活動を通じて、以下の内容が明らかになった。 ・住民の意識：住民は脱炭素政策への直接的な関心は低いものの、環境問題から派生する施策への関心は高い。脱炭素に向けた行動には、温暖化への危機感や信念、周囲へのイメージが強く影響している。 ・事業者のニーズ：事業者は脱炭素経営を進める上で、補助金や成功事例、専門家の支援を求めている。 ・WEB 検索の動向：脱炭素関連のキーワードでは、「カーボンニュートラル」の検索数が多い。久御山町は行政と企業双方の活動が、脱炭素に向けたアクションが多様である事が示された。 ・カードゲーム体験：参加者はゲームを通じ、協力や情報共有の重要性、行動のバランスやタイミングの必要性を体感するなど、高い満足度と学びの効果をもたらす学習機会となる。 ・森林資源の活用：森林の吸収ポテンシャルは8年間の積算で約8600t-CO₂と推計された。事業者でカーボンオフセットの取組は少しずつ進んでおり、森林クレジットの購入に前向きな企業も見られる。 ・中間支援組織の活動：地球温暖化防止センターの活動は住民レベルに深く浸透している。			
【研究成果の還元】			
・日本建築学会気候危機対応小委員会拡大委員会 3/26 中間支援組織の役割と京都府地球温暖化防止活動推進センターの活動実態 参加者 20 名 ・カードゲーム体験イベント：福知山市 1/30（職員・事業者 21 名）、府大 2/17（学生・教職員 28 名） ・各自治体の今後の環境基本計画への活用が見込まれる			
【お問い合わせ先】		公共政策学部 森下研究室	教授・森下正修
		Tel: 075-703-5324	E-mail: mmorishita@kpu.ac.jp

参考（イメージ図、活動写真等）

- ・2/17 京都府立大学でのカードゲーム体験の様子



- ・住民意識・行動調査の分析結果



- ・京都府自治体との連携

(左) 2/1 京都環境フェスティバル・開会セレモニー

(右) 福知山市環境審議会が開催された市民交流プラザふくちやま

